

## 調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	74	70
卸売業	27	25
小売業	106	103
飲食業	30	29
サービス業	62	62
運輸業	13	12
建設業	64	63
不動産業	23	23
合計	399	387

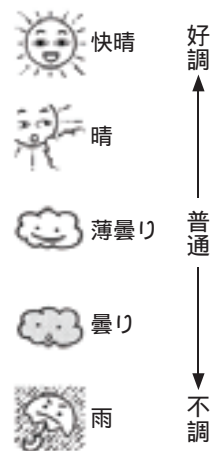
調査時期 6月上旬  
 調査内容 平成21年4月～6月の景況  
 平成21年7月～9月の見通し  
 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査  
 調査対象 当金庫の取引先  
 回答数 387先(回答率96.99%)  
 (回収不能 12先)

お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《(019)623-2221》までお願いします。  
 次回調査(9月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

## 景況天気図

(景況調査の概況)

	平成20年1～3月期	平成21年4～6月期	平成21年7～9月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。



# 景況総合判断指数(DI)

平成21年 4 ~ 6月

前 期 *DI	当期(平成21年1月~3月期に比べて)				景 況	見通し(平成21年7月~9月期)			
	増 加	普 通	減 少	*DI		増 加	普 通	減 少	*DI
-61	7	25	68	-61	業 況	5	28	67	-63
-42	18	24	58	-40	売 上 高	16	35	49	-37
-50	12	26	62	-49	収 益	12	37	51	-42
-22	8	60	32	-25	販 売 請 負 価 格	6	67	27	-22
8	19	64	17	2	材 料 仕 入 価 格	16	71	13	2
4	13	73	14	-1	在 庫	12	74	14	-1
-44	4	51	45	-43	資 金 繰 り	3	53	44	-42
-20	6	64	30	-22	残 業 時 間	7	67	26	-18
4	21	68	11	4	人 手	18	71	11	8
-11	7	79	14	-7	設 備 の 状 況	5	81	14	-10

\*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

\*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増 加	普 通	減 少
業 況	良 い	普 通	悪 い
価 格	上 昇	変 わ ら ず	下 降
在庫・人手・設備の状況	過 剰	適 正	不 足
資金繰り	楽	変 わ ら ず	苦 し い

## 業種別業況動向

(景況調査の概況)

	平成21年1~3月期		平成21年4~6月期		平成21年7~9月期	
	実 績	前期予想	実 績	前期予想	見通し	
全 業 種 ( 総 合 )	-61	-63	-61	-63	-63	—
製 造 業	-68	-56	-51	-68	-55	—
卸 売 業	-71	-70	-59	-70	-75	—
小 売 業	-57	-70	-65	-59	-66	—
飲 食 業	-61	-57	-83	-58	-79	—
サ ー ビ ス 業	-48	-51	-54	-58	-54	—
運 輸 業	-92	-84	-57	-74	-51	—
建 設 業	-63	-69	-63	-64	-56	—
不 動 産 業	-62	-52	-68	-75	-77	—

\*DIは季節調整済 \*それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

## 景況

## 景況は横ばいで推移

今期(平成21年4月～6月期)の景況は、全業種総体では前期の「さらに悪化傾向を強める」から、横ばいで推移しました。業種別では製造業、卸売業、運輸業で改善がみられ、建設業で横ばいとなりましたが、小売業、飲食業、サービス業、不動産業では後退しました。

**業況判断指数**(季節調整済DI)は、全業種で-61と横ばいとなりました。製造業は前期-68から-51と17ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。非製造業は前期-60から63と3ポイント下降となり、悪化傾向を強めました。

**売上額**は、-40と前期比2ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。

**収益**は、-49と前期比1ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。

**価格面**は、販売価格は-25と前期比3ポイント下降し、仕入価格では2と前期比6ポイント下降しました。

**資金繰り**は、-43と前期比1ポイント上昇し、窮屈感をわずかに弱めました。

**業種別の業況**は、製造業は-51と前期比17ポイント、卸売業は-59と前期比12ポイント上昇し、若干悪化傾向を弱めました。小売業は-65と前期比8ポイント下降し、悪化傾向を強めました。飲食業は-83と前期比22ポイント大きく下降し、悪化傾向を強めました。サービス業は-54と6ポイント下降し、悪化傾向を強めました。運輸業は-57と前期比35ポイント大きく上昇し、悪化傾向を弱めました。建設業は-63と前期比横ばいとなりました。不動産業は-68と前期比6ポイント下降し、悪化傾向を強めました。

**経営上の問題点**は、「売上の停滞・減少」が68%と前期比3ポイント下降しました。「同業者間の競争の激化」は40%と前期比4ポイント上昇しました。「利幅の縮小」は33%と横ばいとなりました。

## 来期の見通し

## 景況はわずかに悪化

来期(平成21年4月～6月期)の景況は、運輸業で今期に続き改善するとみており、飲食業、建設業で回復するとみていますが、総体的には悪化傾向がわずかに強まるとみています。

**業況判断指数**は、-63と今期に比べ2ポイント下降し、悪化傾向を強めそうです。

**売上額**は、-37と今期に比べ3ポイント、**収益**は-42と今期に比べ7ポイント上昇し、減少傾向を弱めるとみています。

**価格面**では、販売価格は-22と3ポイント上昇し、下降傾向が弱まるとみており、**仕入価格**は横ばいとなるとみています。

**資金繰り**は-42と今期に比べ1ポイント上昇し、悪化傾向が弱まり、窮屈感はわずかに弱まりそうです。

**業種別の業況判断**は、飲食業で4ポイント、運輸業で6ポイント、建設業で7ポイント悪化傾向を弱

めるとみており、サービス業で横ばいとなりそうです。一方、製造業では4ポイント、卸売業で16ポイント、小売業で1ポイント、不動産業で9ポイント悪化傾向を強めるとみています。

## 雇用の動き

**人手**は、今期4と前期比横ばいとなりました。来期は8と4ポイント過剰感が強まるとみています。

**残業時間**は、今期-22と2ポイント下降し減少傾向をわずかに強めました。来期は-18と4ポイント上昇するとみています。

## 在庫、設備投資の動き

**在庫**は、今期-1と5ポイント下降し減少に転じました。来期は横ばいとなりそうです。

**設備の状況**は、今期-7と4ポイント不足感を弱めました。来期は-10と3ポイント不足感を強めるとみています。設備投資を実施した先は、今期、全業種総体で車両を中心に19%と4ポイント上昇しました。来期も車両を中心に13%の先が実施予定とし、今期に比べ6ポイント減少するとみています。

業種別では、今期、飲食業で横ばいとなりましたが、その他の業種で増加となりました。来期は飲食業で横ばいとなりそうですが、その他の業種では減少するとみており、総体的に投資意欲は弱まりそうです。

**借入金の状況**については、今期、借入れ実施割合が5割を超えたのは卸売業となりましたが6ポイント減少しました。飲食業では3ポイント増加しましたが、その他の業種では減少となり、全業種総体では29%の実施となり前期比5ポイント減少しました。来期は不動産業で8ポイント増加するとみていますが、その他の業種では減少するとみており、全業種総体では5ポイント減少し24%の実施となりそうです。

**借入れの難易度**は、「難しい」が21%と前期比2ポイント減少しました。

## 景況の推移

\* 前期比：DI・季節調整済

